

プレスリリース

2016年 11月 18日

国立大学法人東北大学災害科学国際研究所

国立研究開発法人海洋研究開発機構

学校法人東邦大学

白亜紀末の巨大衝突クレーターの形成過程を解明

メキシコ・ユカタン半島の地下奥深くには、直径約200kmの白亜紀末（約6600万年前）の巨大衝突クレーター（チチュルブ・クレーター）が埋没しています。このクレーターを形成した天体衝突は、恐竜等の大量絶滅の引き金となったと考えられています。しかし、この衝突クレーターは地下約数百mの深さに埋没しているため、これまで構造や形成過程がわかっていませんでした。今回、国際深海科学掘削計画（IODP）の第364次研究航海"チチュルブ・クレーター掘削計画"により、ピークリングと呼ばれる巨大衝突クレーター特有の構造に狙いを定めて、特定任務掘削船を用いて掘削が行われました。その結果、地下約618 mの深度から衝突起源の堆積物が、748 mの深度からは基盤岩（花崗岩）が発見されました。今回、この結果と数値計算を組み合わせることにより、チチュルブ・クレーターのピークリングの形成過程の解明に成功しました。日本からは、日本地球掘削科学コンソーシアムの支援を受けた後藤和久（東北大学）、佐藤峰南（海洋研究開発機構、以下「JAMSTEC」）、富岡尚敬（JAMSTEC）、山口耕生（東邦大学）の4名が研究に参画しています。この成果は、米国科学振興協会が発行する科学誌サイエンスに11月18日付（日本時間）で掲載されました。

詳細は[東北大学のサイト](#)をご覧ください。

国立研究開発法人海洋研究開発機構

広報部 報道課長 野口 剛